

# サッカーにおける日本のダービーマッチの在り方 ～日本とイギリスのダービーマッチ観の比較から

## The way that Derby Matches in Japan should be: Focusing on the comparison of Derby Matches between Japan and U.K.

1K06B601

天野 徹

指導教員 主査 志々田文明先生

副査 堀野博幸先生

はじめに

「ダービーマッチ」とは、ホームタウンが同じ都市、または同じ地域にある2チームによって行われる試合と考えられている。日本プロサッカーリーグ（以下Jリーグ）加盟のクラブ数は36となり、ダービーマッチの呼ばれる対戦が数多くある。一方で日本国内における有料放送等の普及によって、海外のダービーマッチの雰囲気、そこに潜む背景を日本でも知ることができるようになった。日本と海外のダービーマッチを比べて考えると、その概念には大きな差があるのではないかと考えられる。このような問題意識が本研究における大きな動機である。

本研究ではイギリスと日本におけるダービーマッチの異同について明らかにし、そこから日本のダービーマッチの在り方・方向性について考察することを目的とする。本研究でイギリスを取り上げた理由として、イギリスは近代スポーツ、何よりフットボール発祥の地であることが挙げられる。本研究の目的を達成するために、以下2点の課題を設定する。イギリスにおけるダービーマッチを概観することで、イギリスにおけるダービーマッチを成立せしめる要件を明らかにすること。日本におけるダービーマッチを概観し、ダービーマッチの特質がイギリスと日本では、どのように異なるのかを明らかにすること。上記2点を踏まえて、日本のダービーマッチの在り方・方向性について考察する。

第1章 イギリスにおけるダービーマッチ

イギリスにおけるダービーマッチを概観することで、以下のことが明らかになった。ダービーマッチにはナショナルダービーとローカルダービーの2種類があり、ダービーマッチのほとんどがローカルダービーであった。そのローカルダービーの成立要件は(1)同じ地域・都市にあるという共通点とファン層におけるクラブ外への対立の歴史、(2)クラブ全体の相手に対する激しい敵対心と連帯感、(3)クラブの規模と戦力の拮抗、であった。

第2章 日本におけるダービーマッチ

日本のJリーグには、ナショナルダービー、ローカルダービーの他に、プロモーションのために企画されたダービーマッチである“企画ダービー”が存在し、これが日本のダービーマッチの特色である。また、ローカルダービーのなかにも企画ダービーの性格を持つものが多くあった。

第3章 日本のダービーマッチの今後の在り方・方向性

日本のダービーマッチの在り方・方向性は、Jリーグが目指す理想の延長線上にあるのが自然な形であると考えた。スタジアムの安全性と快適さをJリーグは強く重要視していることから、日本のJリーグが目指すダービーマッチはあくまでも、暴力、暴動、汚い罵り合い、野次がなく、安全が確保されたスタジアムで行われるべ

きだと考えた。

## 結論

日本のダービーマッチの今後の方向性について、「安全なダービーマッチの創造」を目指すべきというのが本研究での結論である。そのようなダービーマッチでは強烈なライバル関係は形成されにくいかもしれないが、ライバル関係は長い年月をかけて醸成されるものなのではないのか。それはイギリスのクラブの歴史が120年もあり、現在のライバル関係が築き上げられていることからわかる。